

# はあとぴあ

第15号

## 南信ブロック障害者就業支援ネットワークセミナー 「働く・働き続けるためにできること…」

平成23年度南信ブロック障害者就労支援ネットワークセミナーを12月1日（木）プリエキャスレード（伊那市）で開催しました。諏訪地域・上伊那地域・飯伊地域が一体となって、障がい者の就業支援のためにネットワークの強化・充実を図るために開催し、今年度で5回目です。当日、諏訪・伊那・飯伊から170名の多くの方に参加していただくことができました。参加者は就労を目指している障がいをおもちの方・企業・福祉施設関係者・学校関係・医療関係・行政関係等多方面にわたり、就労に対する関心の高さや期待の大きさを実感することができました。

「働く・働き続けるためにできること・・・～厳しい雇用情勢の中、働くために今できることを一緒に考えてみませんか？～」をテーマに基調講演、シンポジウムなどの形で行われました。また、会場内では、障害者支援施設で作った色とりどりの小物やパン、麺類、

お菓子等が販売されました。14施設もの参加でセミナーに花が添えられました。

セミナーを開催することにより、障がいを持つ皆さんが、働くために今できることを考えていただくのに役立つことが出来れば幸いです。



## きらりあ職員の仕事紹介

精神障害者生活支援コーディネーター  
埋橋 小百合

今回の「きらりあ職員の仕事の内容紹介」は、精神障害者生活支援コーディネーターについてです。

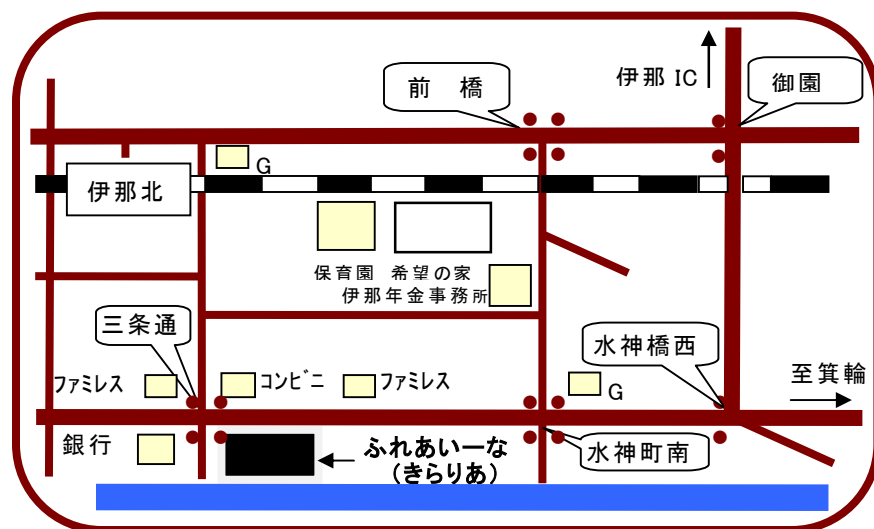
私の仕事は、地域で精神の病を抱えて暮らしている方々の、生活のしづらさ、困りごとや悩みなどについてお話を伺い、一緒に考える相談の対応です。

相談者は当事者をはじめその家族や、市町村の保健福祉の担当者、近隣病院の関係者から来る事もあります。身近な福祉サービスの利用に関わる支援や調整を行ない、家庭や日中活動の場を訪問するなど活動しています。困りごとの解決の為に関係する機関との連絡調整や、当事者会や家族会とのつながりを持ちつつ、地域とのつなぎ等の役割もあります。

障がいをお持ちの皆さんの思いに寄り添い、その方の目標に少しでも近づけるように、との思いで相談に応じています。

**編集後記** 寒い日が続いていますが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？

今年も「きらりあ」は、多くの方が安心して地域で暮らせるよう、職員一同努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。（M）



上伊那圏域障害者総合支援センター  
きらりあ  
〒396-0023 伊那市山寺298-1  
電話:0265-74-5627  
FAX:0265-74-8661  
e-mail:ksc@ar.wakwak.com

# 南信ブロック障害者就業支援ネットワークセミナー

## 基調講演

基調講演は、長野市で障害者の就労支援などを行う社会福祉法人「ともいき会」の越川睦美統括センター長により「長野県の就労支援のあゆみ、そして未来へ」と題して講演をいただきました。

越川さんは、障がい者の就業について、図書館の書架整理やスーパーなどでの商品補充作業で働く事例や、作業時間を分け合い短時間で仕事に従事する形態を紹介して下さり、「企業や支援者の考え次第で、働く場所は開拓できる」と強調されました。また、「地域のネットワークが形式だけの責任の押し付け合いの場所になっていないか」と指摘され、支援者に対し、よりよい支援を促す言葉をいただきました。



## シンポジウム

シンポジウムは、「みんなで支える就労支援」と題して行われました。基調講演をいただいた越川さんに再びアドバイザーとしてご登壇いただきました。

シンポジストとして雇用者の立場で、株式会社協和精工代表取締役社長の堀政則さん、支援者として伊那養護学校の古田昌三進路指導主事、当事者として、協和精工に勤務されている田中章広さん、ユニクロに勤務の宮坂隆水さんにご発言いただきました。

堀社長は、自社における障がい者雇用の取り組みの様子、「いい会社をつくろう」を合言葉にし、「社員とその家族が協和精工の社員でよかった」といえる会社を目指しているなどのお話をいただきました。

古田先生からは、伊那養護学校における就労に向けて進路指導の様子を発表していただきました。平成14年から22年度までの進路状況について数字を交えて詳しく説明していただきました。

田中さんは、協和精工で生き生きと活躍されている様子を語って下さり、宮坂さんは「精神障害者の就労について」ということで自身の就労の様子、雇用者に配慮していただきたい点などをお話していただきました。

シンポジウムに参加された方の感想として、「当事者の方のお話がとても良かったです。」「感動しました。」「精神障がいの方の話が聞いて良かった。」「私もがんばりたいと思います。」など、当事者の方の話に感動し、元気をいただいたとの声を多く聞くことができました。



# 上伊那圏域福祉フォーラム開催しました

平成23年度上伊那圏域福祉フォーラムを10月23日（土）駒ヶ根総合文化センターで開催しました。

スタッフ含めて261名の多くの方に参加してもらえました。参加者は一般の方から福祉施設関係者、民生委員、学校関係、医療関係、行政関係等多方面にわたり、上伊那圏域の福祉に対する関心の高さや期待の大きさを実感する事ができました。

## 【主に青年期における発達障がい支援分科会】

講師に、駒ヶ根市在住の臨床心理士・有賀和枝さんをお招きし、「地域に根づく心の活動をめざして」をテーマに講演会を行いました。発達特性を持つ子どもたちと向き合ってきた経験から、関わり方のポイントや、「すずらん100年はなまつり」など地域での様々な活動を紹介していただきました。ゲストには、同じく駒ヶ根市で活躍している行政・企業の方3氏をお招きし、地域での活動やその思いを会場全体で分かち合いました。40名を超える参加をいただき、大変有意義な分科会となりました。



## 【メンタルライフサポート分科会】

「待っている支援から、出掛けていく支援へ」というテーマに基づいて、保健師、訪問看護師、高校の養護教諭、訪問介護員の4人のパネリストを招いて、県自立支援協議会の杉田義夫さんの司会で、各方々から支援の実践を、学校からはシステムの概要を話していただきました。寄せられた感想は、「それぞれの機関の仕事がよくわかった」、「当事者の関わりなどあり方が聞けた」、「連携することの大切さを強く感じた」、「とてもわかりやすく良かった」、など充実の声満載でした。

# グループホーム世話人研修会

## 障害者生活支援ワーカー 志賀 裕美子

平成23年10月5日(水)に世話人連絡会の研修会で、下伊那北部精神障害者家族会の会長、宮澤逸夫氏を招いて「親の思いをかたちに～世話人さんに求められる支援とは～」と題して講演をいただきました。講演では、利用者と世話人の関係はお金を払っているんだから当たり前という関係ではなく、利用者も世話人もお互い感謝の気持ちを忘れず毎日過ごしたいと話され、日々の気持ちの持ち方を考えさせられました。世話人連絡会の方々からも、「講師の方から、親の立場と施設の立場からの話が聞いて参考になり、今後の業務に生かしたい」、「利用者の方には愛情を持って接していきたい」という声を聞くことができました。

